平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	パルス工学(Pulse Engineering)			授業コード	C009051
担当教員名	片山　秀則			科目ナンバリングコード	3
配当学年	3	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	国家試験の合格を目指します。				
受講心得					
教科書	プリント				
参考文献及び指定図書					
関連科目					

授業の目的	国家試験の合格を目指します。
授業の概要	国家試験の合格を目指します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： パルス特性ー基本性質 パルスとは何かを、実例を交えて説明します。	課題提示
第 2 週 ： パルス特性ーパルスのスペクトル解析 パルス波形の特性をスペクトルから考えます。	課題解答・課題提示
第 3 週 ： パルス特性ーフィルタ パルス波をセレクトするためのフィルタについて考えます。	課題解答・課題提示
第 4 週 ： パルス特性ーパルス伝送 パルス波を使った伝送(通信)の仕組みを考えます。	課題解答
第 5 週 ： 小テスト パルス波に関する小テストを行います。	
第 6 週 ： アナログ回路ーパルス波形操作回路 パルス波の形を操作する回路について考えます。	課題提示
第 7 週 ： アナログ回路ーパルス波形整形回路 パルス波の形をもとに戻す回路について考えます。	課題解答・課題提示
第 8 週 ： アナログ回路ーパルス発生回路 パルス波を発生させる回路について考えます。	課題解答・課題提示
第 9 週 ： デジタル回路ーパルス発生回路 デジタル回路におけるパルス波を考え、その波形を発生させる回路を考えます。	課題解答
第10週： 小テスト パルス波とそのための回路の動作について小テストをします。	

第11週： 各種応用回路 パルスを用いた回路としてデジタル回路のカウンタ回路について考えます。	課題提示
第 12 週 各種応用回路 パルスを用いた回路としてデジタル回路のレジスタ回路について考えます。	課題解答・課題提示
第13週： 各種応用回路 パルスを用いた回路として所謂パルス回路の同期・分周回路について考えます。	課題解答
第14週： 小テスト パルスを用いた回路についての小テストを行います。	
第15週： 自己点検授業 学生アンケートを含め自己点検を行うために、実習を通して学生からの評価・意見を確認します。	
第16週： 期末試験 パルス回路に関する試験を行います。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	授業への関心・理解への意欲・積極的な態度について評価します。
【知識・理解】	国家試験に必要な知識を理解します。
【技能・表現・コミュニケーション】	積極的な取り組みがレポートの記述に反映されている場合は評価を高くします。
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**70点**	**10点**	**20点**	
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	必要に応じて課題を出します
発表・その他（無形成果）	演習問題・課題・宿題の発表者には加点します。